

令和7年度 第1回羽黒地域振興懇談会での意見への対応方針について

資料1

	意見(要約)	意見に対するコメント(当日)	対応状況	対応方針	所管課
1	<p>新泉地区地域活動センターの基本構想策定にあたって、併設の体育館とグラウンドについても一体として考え進めた方がいいのではないかと。</p>	<p>人口減少を考慮し、将来的なスポーツ体育施設、学校施設、文化活動の場等を含め、市全体の中で施設をどう考え、維持していくのか議論し、総合的な検討をしていきたい。</p>	<p>対応中</p>	<p>泉地区地域活動センターに併設している体育室とグラウンドの取り扱いについては、新泉地区地域活動センター整備基本構想(案)に、方針を記載する。</p>	<p>羽黒庁舎 総務企画課 (コミュニティ推進課、スポーツ課)</p>
2	<p>泉地区地域活動センターと隣接する老人福祉施設も老朽化し、昨年度空調が故障し代替え場所で福祉委員会を開催した経緯がある。今後益々修繕が増えることが予想されることから、所有は社会福祉協議会ではあるが、新泉地区地域活動センターの整備に併せてトータル的に検討していただきたい。</p>	<p>地下水と土壌の関係もあるとのこと、簡単に解決できるものではないと聞いている。老人福祉センターは増改築が途中で、補助金の関係で繰越できないなどいろいろ問題があるかと思う。すぐ近くの施設なのでそういった部分も含め総合的な大開発をしていかなければならないことは承知している。</p>		<p>老人福祉センターは、市の土地に社会福祉協議会が建設したものである。平成12年に国の補助金を活用し、風呂・和室を改修しており、処分制限期間が終了していないため、構造等を変更すると補助金の返還義務が生じると聞いている。老人福祉センターについては、今後のあり方について管理者の社会福祉協議会、関係部署と協議する必要がある。</p>	<p>羽黒庁舎 市民福祉課、 総務企画課</p>
3	<p>羽黒地域の過疎対策事業の見直しにおいて、人口減少や高齢化、農業振興や観光振興、新島(友好都市)の交流事業、4地域で策定した地域ビジョン等を盛り込んだより良いものを作っていただきたい。</p>	<p>農業、観光については、市過疎計画における実施すべき施策の(2)産業の振興に含んで記載する。 第一次市過疎計画では、地域間交流の促進には国内外の兄弟都市・友好都市などとの交流事業や、ふるさと会の組織活性化などを記載している、そういった事業を想定している。事業担当課と確認し、ソフト事業についても市過疎計画に記載すれば過疎対策債の対象になるので、記載漏れがないように策定していきたいと考えている。地域ビジョンも確認して、第二次市過疎計画の中に盛り込めないか検討する。</p>		<p>人口減少・友好都市等との交流事業については、『移住・定住・地域間交流の促進、人材育成』箇所に記載した。 高齢化については、『子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進』箇所に記載した。 農業振興・観光振興については、『産業の振興』箇所に記載した。 そのほかにも、過疎計画には生活環境や医療、教育、地域文化など幅広い分野に関する事項を網羅的に記載した。また、地域が主体的に取り組む地域ビジョンの内容と連携し、後押しできるように集落対策についても記載した。</p>	<p>地域振興課 (羽黒庁舎総務企画課)</p>

	意見(要約)	意見に対するコメント(当日)	対応状況	対応方針	所管課
4	<p>来年度は羽黒山の午年御縁年にあたり来訪者が増えることが予測される。一方で、羽黒山頂や随神門周辺の駐車場、また月山の駐車場は限定的で、二次交通の問題も解消されていないため渋滞等の混乱から地域の住民の生活の迷惑になるのではないかと認識している。地域住民の方たちとの意見交換も大事だと認識している。市や県は、出羽三山にお客さんが来て、周辺地域にも経済効果が回っていくことを求めているが、オーバーツーリズムにならない受入れ客数の上限はおそらく100万人程度と思う。将来的な羽黒地域の観光施策の方針について検討もないままオーバーツーリズムになるようなことを進めていくべきなのか。数やお金だけではない観光のあり方を模索していかなければならないと思う。</p>	<p>受け入れ側の体制として二次交通や駐車場の問題があり、課題として捉えている。羽黒庁舎としても、観光客にできるだけ長い時間滞在していただいて手向地区にお金が落ちる仕組みを作っていこうということで取組みを進めている。</p>		<p>多客期の渋滞対応については、羽黒山は随神門周辺の民間駐車場の借用や交通誘導を行っている。月山については、8合目の駐車場などに誘導員を配置している。今後は、路線バスの利用促進や月山6合目からシャトルバスの運行など混雑緩和につなげる取組みも進めていく。</p> <p>羽黒地域は、これまで先人が守ってきた出羽三山信仰を柱として受け入れを行ってきた経緯をふまえ、日本遺産「生まれかわりの旅」として客数ではなく客層の質を高めるため、課題となっている二次交通の問題や、次世代やインバウンドなどの受入れ体制づくりについて、地域住民の方々の意見を聞きながら、市と関係機関が連携して取り組んでいきたい。</p>	羽黒庁舎 産業建設課 (観光物産課)
5	<p>タクシーの運転手不足について、全国でやっているライドシェアもあり、タクシー会社からの協力が必要だと思うが鶴岡市ではどういう方向で進もうと考えているのか。</p>	<p>バスの運転手やタクシーの運転手はものすごく不足している状況。ライドシェアは2種類あり、公共的なライドシェアと日本版ライドシェアがある。日本版ライドシェアはタクシー業者が自分たちでライドシェアを行うもので、公共ライドシェアは自治体やNPO法人等の団体が行うもの。市としてもタクシー業者を圧迫してはだめだろうということもあるし、生活の足を確保するといった点でも考えなければいけないため、どうしようかと思っていたところ。本決まりではないが、タクシー業者の方でライドシェアを検討しようかなという動きは出ており、市の方でも相談を受けている。</p>		<p>市内タクシー事業者が東北運輸局の許可を得て、代行業者と連携した「日本版ライドシェア」の実証運行を行いました。順調に実施されれば、深夜帯の移動需要を補完する新たな選択肢となる得る可能性があるため、市としても配車アプリの導入支援を検討するなど、本格的な運行が可能となるようよりそっていきます。</p>	地域振興課